

平成21年度採択

プレ戦略イニシアティブ

<分野> 学際、複合、新領域

筑波大学 University of Tsukuba



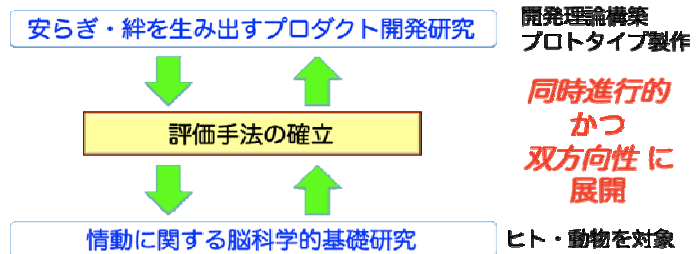
筑波大学
研究戦略イニシアティブ推進機構
Organization for the Support and Development
of Strategic Initiatives

拠点名称：社会的絆の回復を目指す「情動の人間総合科学」の研究拠点創成 (A Center for Comprehensive Science of Emotion and Social Bond)

拠点代表者：人間総合科学研究科・准教授・岩本 義輝

拠点形成活動の概要

現代社会における無差別な暴力犯罪、引きこもりや登校拒否など様々な問題の源には、疲弊し安らぎを失ったところと人と人との絆の消失があるように思われます。われわれは、脳科学と芸術の融合により、安らぎと絆の回復に貢献することができると考えます。本研究拠点は、社会的絆の回復という目標に向かって、感性認知脳科学専攻の人的資源を最大限に活用しながら、安らぎ・絆の基盤をなす情動に関する脳科学的研究と、安らぎ・絆を生み出すプロダクト開発研究を同時進行的に展開します。真の融合研究の実現のため、「基礎から応用へ、応用から基礎へ」という双方向的アプローチをとっています。また、全く性質の異なる異分野の融合には、個々の研究者レベルでの意識改革、視野の拡大が必須であるとの認識に立ち、本拠点では、「絆と安らぎ」研究セミナーの開催などにより、専攻ではカバーしきれない哲学、発達心理学領域等の講演会を開催し、また社会貢献活動にも力を入れています。



拠点形成に係る研究活動の概要

融合研究プロジェクトの推進を効果的にはかるため、「安らぎ」と「絆」をテーマとした2つのプロジェクトを推進しています。

○安らぎをもたらすプロダクト開発：人のところに「安らぎ」をもたらす室内環境デザインや製品を開発するための画期的手法の創出を目指します。①環境刺激が惹起する情動に関する行動学的・脳科学的研究を基に、デザインや環境が人に与える「安らぎ度」の評価法を確立し、②安らぎを生むように設計された製品を創り出し、③これを用いた行動学的・脳科学的研究により、安らぎの脳科学的基盤を解明することを目標として、研究開発を進めています。

○絆の生物学的基盤とその社会への応用：①親子、パートナー間など個体間の愛情形成や信頼形成、社会的恐怖形成など対人情動反応をテーマに、行動内分泌基盤、遺伝子多型、脳活動パターン等を解析し、「絆」の定量評価法、動物モデルの確立、脳内神経機構の解明を目指します。②同時に「絆」を生み出すインターフェース・製品を開発し、③その定量評価法を活用して、さらに効果の高いプロダクトを産出することを目標として、活動しています。

これらの成果の一部は、感性認知脳科学専攻「こころ」の科学フェスタ（3/16/2010）において発表予定です。